



「白雲なびく駿河台～」

約200名での日本一の校歌斉唱は感動もの！

平成29年度 愛知県支部総会・ 講演会・懇親会盛大に開催

平成29年6月4日、名古屋東急ホテルにて明治大学校友会愛知県支部総会・講演会・懇親会が盛大に開催されました。総会では、全員一致で議案が可決され、続く土屋学長自らによる講演会「能・世阿弥 風姿花伝」では、武道の立ち合いのような当時の能の奥深さに触れることができました(講演会の要旨は次ページ特集にて)。懇親会では約200名の校友が集い、恒例の応援パフォーマンスにより気分は一気に学生時代へ。メの全員が肩を組んでの校歌斉唱では、東京六大学初の女性応援団長・新宅杏子さんのリードで、校友の心は一つに。校友ならではの共感を胸に名古屋の夜を堪能しました。



西脇支部長によるご挨拶は、母校の最新情報がふんだんに盛り込まれ、現役当時の情景があざやかに思い浮かびます。



講演会の講師も担われた土屋学長の挨拶では、ライバル大学との生き残りをかけた戦いを熱く語られました。

明治大学校友会名古屋地域支部会報誌

MU Meiji University News News

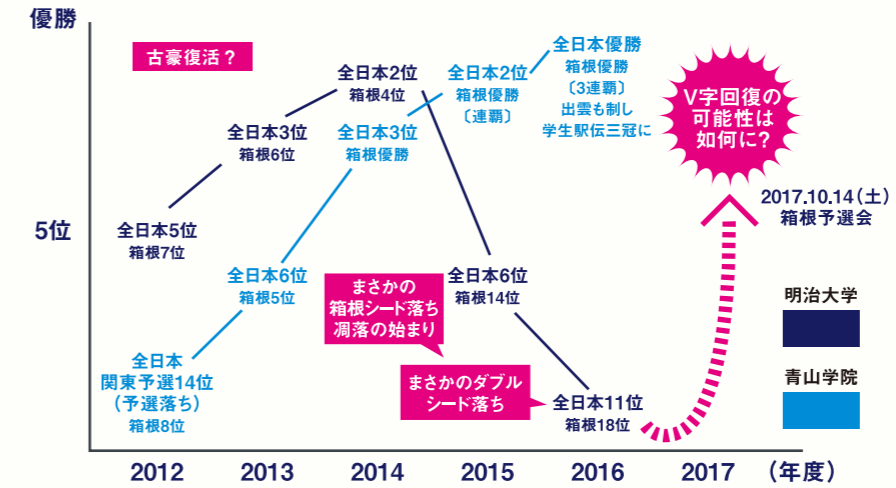
2017. 11

Vol.34

※
「MARCHの中で最も躍進」と
報道された我らが母校明治大学
土屋学長がその秘訣を公開!!
※週刊ダイヤモンド2017年9月16日号「特集 大学序列」

Meiji University News 年2回/5月・11月発行 発行日: 2017年11月 発行所: 明治大学校友会 名古屋地域支部 編集: 広報委員会
〒463-0022 名古屋守山区八剣二丁目118番地 tel 052-798-6147 fax 052-798-5159 http://aichi.meiji-shikon.net

MU News 2017.11



日 時: 平成29年11月5日 (日)
集合場所: 熱田神宮西門前応援エリア
集合時間: 午前6時45分
開始時刻: 午前7時10分

スタート後、付近の特別会場にて有志による懇親朝食会を開催します。
お時間許す限りお問い合わせの上ご参加ください。

このMUNewsが届く頃には、 既に結果が出ているはずです。

今年の母校は箱根を走ることができるのか？
そうです、前々回のシート落ち以降、連続での箱根予選会への参加。
グラフでもご紹介している通り、数年前までは、「古豪復活」と持て囃されていた時期もあったのです。
古豪とは、若い校友はピンとこないかもしれませんが、母校明治大学は、箱根駅伝で7度も総合優勝に輝いているのです。
しかしながら、ここ2年の凋落ぶりといったら、まさに急坂を転がり落ちるような様相で…
そして昨年は、この全日本大学駅伝でも11位に甘んじ、まさかのシート落ち。
6月の予選会では関東地区7位と薄氷ながら出場権を得ることができ、こうやって応援合戦の案内をすることができるわけですが、やはり箱根の切符が有るか無いかでは…
何れにしても、後輩たちは全力を尽くしていただけると存じますので、校友の皆さん、声掛けあって、熱田神宮にお集まりいただき、熱い声援で後押しして参りましょう！

編集後記

明早戦観戦のため、国立競技場に徹夜して列んだ世代(平成元年卒)としては、近年のラグビー部の凋落ぶりを寂しく感じておりました。そんな中、古豪復活と競走部に明るい兆しが見え始めたばかりだったのに…前々回でご紹介した青学原監督の見立て通り、指導者を代えて4年間待つしかないのでしょうか…とにかく我々校友は信じてひたすら応援し続けましょう！

名古屋地域支部年会費の振込先
[郵便振込] ※振込料は会員負担です。
年会費 / ￥6,000
口座番号 / 00830-1-72587
加入者名 / 明治大学校友会名古屋地域支部
※加入者名義変更にご注意ください。

名古屋地域支部事務局
〒463-0022 名古屋守山区八剣二丁目118番地
日本ゼネラルフード(株) 総務部内
TEL (052) 798-6147 FAX (052) 798-5159

校友会愛知県支部ホームページ広告
バナー広告協賛企業大募集
タイムリーな情報発信で、校友の絆を深めています！
ホームページアドレス: <http://aichi.meiji-shikon.net>
ホームページに関するお問い合わせ
広報委員会: 加藤 090-8738-3530

第49回全日本大学駅伝 箱根シート権の手土産を信じつつ… 応援合戦&懇親朝食会



特集

土屋恵一郎学長
公開講演会

講演テーマ

現代社会に「能・世阿弥 風姿花伝」は語りかける

講演会終了後、多くの参加者から、「今日の話は勉強になった」という声を聞くことができました。

今回は聞き逃してしまった校友の皆さんに、お裾分けの気持ちで特集紹介です。

世阿弥は能役者として生涯現役で活躍するにはどうしたら良いか、常に考えていたのだろう。また、命がなくなっても「能（仕事）」には終わりが無く、後継者を残していかなければならないという宿命に承えていかなければならなかった。

「初心忘るべからず」(『花鏡』より)
初心には3つの意味がある。

①是非の初心(24〜25歳)
体ができ芸ができるようになると、周りからちやほされ天狗になり、努力しなくなってしまう。
②時々の初心(中年)
自分の芽が出るかどうか見えてくる時期。力が落ちはじめ、若い頃の美しさも衰えてくる。そんな中、後継者も育成しなければならぬ(老後では遅い)。派手にやっても見苦しくなる時期だけに、年相応の芸を学んだという「初心」を忘れずに実践しなければならぬ。

③老後の初心(老後)
何をやっても美しさがなくなる時期。何もしないこと以外に手立てがない。若いつもりで働くのではなく、老木に残る一輪花のように働くべき。若い者は立ててくれるので、どうしても傲慢になりがちな時期、老後に相応しい芸という「初心」を忘れてはいけない。

中村歌右衛門の晩年は、美しさはなくとも、芸は素晴らしかったという評価。実は、本人は美しいと言った欲しかったとのこと。人の想いと生きるための現実とのギャップに苦しむ人間の切ないエピソードといえるのでは。
今でこそ「能」は芸術であるが、当時は違った。1日に何人ものが出て競っていた。負けると仕事も減り収入も減る。世阿弥の著書は剣の道を極める本か?と感ずる。

「秘すれば花」。この言葉は、女性もさらけ出すのではなく、隠すことで美しさが増す、という意味で使われていますが、世阿弥はそんなことを言っていない。勝つためには必ず秘めたものを持ち、イザという時にそれを出す、という戦術論として語っている。世阿弥は、勝つにはどうしたら良いかを常に突き詰めていたのだ。

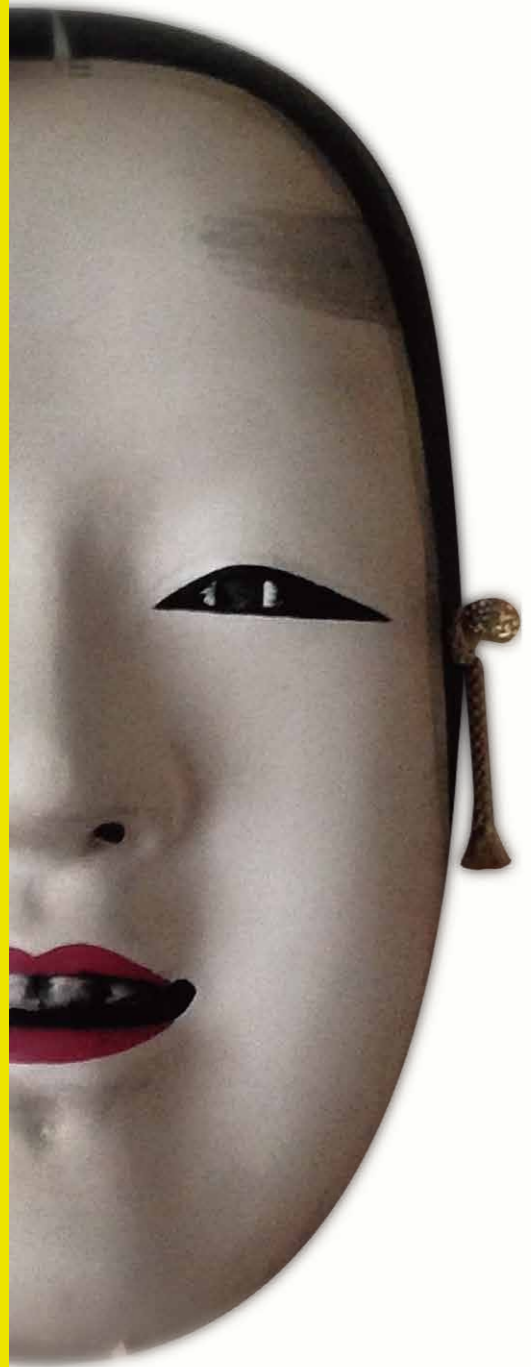
「男時(おどき)、女時(めどき)」
『風姿花伝』より

勢いがあるとき、勢いがないときの言い回し。相手が男時(おどき)のときに勝負を挑んでも負けてしまふ。ときの波を読まねばならない。信じれば、男時は必ずやってくる。故に常に準備をしておかねばならず、それを怠っていると勝てるものも勝てない。

「時節勘当」(『風姿花伝』より)

物事はタイミングが大切。能は酒宴でも舞わなければならぬ。能には、序↓破↓急という基本手順があるが、時には「序」を省略して、「破」から始めなければならない場面もある。例えば、結婚式の余興も雰囲気に合わせてなければウケない。自分をそこに合わせる、自分を変えろと世阿弥は言っている。

最後に、「住することなきをもつて花とする(安住しないことが大切)」、「珍しき花(新しいこと、珍しいこと、面白いことが大切)」という世阿弥の言葉を紹介され、どんなに成功してもそこに安住せず、イノベーションを起こし、大学も変わっていかねばならないと締めくくられました。



待ちに待った3年間！
第8回マンドリン倶楽部コンサート

平成29年8月21日、3年ぶりに明治大学マンドリン倶楽部が名古屋の地に戻ってまいりました。今回は、母校の偉人「阿久悠・最後の秘蔵っ子」の異名を持つ「あさみちゆき」さんをごゲストにお招きし、盛大に開催することができました。日本特殊陶業市民会館ビレッジホールに集まった約1500名の聴衆も、永遠の古賀メロディーはじめ、昭和歌謡テイストの魅力溢れる曲等、甲斐先生率いるマンドリン倶楽部の響きに酔いしれ、夏の夜を堪能することができたようです。



夏休み期間は、毎日全国各地を遠征し演奏しています。



美しい歌声を披露する「井の頭公園の歌姫」あさみちゆきさん。